

<ジュエリーの起源はお護りだった>



という話がある。お護りの対象は二つ。身体（心臓）を守る。これは騎士に多く、古くは紀元前のアレクサンダー大王がクリソフーズを身に着け闘いを勝ち抜いたという話もあり、首元にぴったりのペンダントをつけて戦う画もある。又、胸に十字架を下げ、常に神キリストと共にあるとした修道士たち。邪悪な魂から身を護るためにペンダントを長く下げていたのは僧侶。更に、自身の威力を示し強い権力を得る為でもあった。歴史の中のヒロイン達のダイアにまつわる逸話も面白い。歴史（人間）は大して進化していないようだ。

<チープシック>

とのタイトルの黄色い表紙の本。写真はモノクロ。1977年アメリカ初版。その日本語版を私が入手したのは1980年代か。ファッションをチープ（安く）仕上げる話ではない。ファッションとは生き方である、とこの本は言う。この本はファッションを超えた生き方のスタイルも気付かせてくれた。生き方とファッションは共通項なのだ。自分の中が整ってくるとファッションも迷いがなくなる。迷いが無くなると生きる事さえ楽になる。さほどにファッションは力を持っていることになる。誰か男性の著書に“服で自己主張するのは発展途上”と。現在の私の衣類は数十年來のものも多い。年一度程は新顔が増えることもあるが、もう無くても暮らせる、と思ったら似合う人を探し、着て頂き、増えないようにする。長年慣れ親しんだ服にジュエリーで引き締める。とても楽しい。仕事の場で初めてお会いした女性をじっと観察。肌、髪色、身に着けているものから環境（家庭、職場等）を推察。どうしたらこの女性が美しくこの人らしく幸せ（家庭、職場での向上）に導くアイテム（ジュエリー）は何かを考える。これも、この本から得た事かもしれない。



<役に立たないものをつくること>

という企画が本田宗一郎の発案で出されたという話。更に、審査員は真面目な人でないことも条件のひとつ。周囲は意義が感じられない、と困惑。やがて、海外から迷イベント、無駄発明が出てくる。それが楽しさになり、後に日本国内、更に大きな開発を産むという、何かお手本ような話。

<春は楽しい>

狭いながらも楽しい我が家の庭。高い所には赤くアカシアが立ち垣根や門扉やらの白、ピンクや薄紫の薔薇。更にその下は色も褪せかけたクリスマスローズ。毎日楽しみに見に行くアスパラは20本以上収穫している。薔薇は柔らかな色が花開き、頭上もそよそよ。春は楽しい！と一日何度も庭をウロウロ。遂には別方向の植木改造作戦も。と楽しさ満開。



アカシア



バラ



クリスマスローズ

<松田百合子展>



富士山の麓、忍野村に住む陶作家の個展に行く。今回の個展場所は富士の麓、深い緑に囲まれたギャラリーなので気軽にドライブ。数十年前、甲府のギャラリーで知り合い忍野村の工房にも訪ね、その折に求めた可愛い南瓜は愛蔵している。今回の作品群はさらにパワフル、新緑の林の中でその作品たちは更にどれも明るく楽しい姿で存在する。



パールペンダントとイヤリング
誰もが持っているパールジュエリー
BIZのパールはこんなに楽しくなります
お出かけにふだんのおしゃれに



クリソフレーズと
ロードクロサイトのリング
二つの石がかわいくもたれあっている

BIZ
Setsuko
Shimada
Jewellery

初夏の装いを爽やかに
大人の女性のジュエリー展

2019 6/26(水)~30(日) 岡島1Fシャルム